

■市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 正文



■レノファ山口とともに

「DO! ALL SPORTS」(どんなスポーツでも楽しんで、みんな健康で豊かな人生を送ろう)。これがレノファ山口の所属するJリーグの百年構想です。この百年構想に感銘を受け、Jリーグの承認のもと、本市がレノファ山口のホームタウン(応援都市)になったのが平成26年9月。当時、レノファ山口はアマチュアの地域リーグで活躍していましたが、翌27年にはプロのJ3に昇格して優勝。28年シーズンはJ2に昇格して戦い抜きました。J2には22チームが在籍していますが、その中にはプロサッカーのトップリーグであるJ1に在籍したことのあるチームが10チームもいます。J1とJ2との間で入れ替わりが激しいのでしょうか。レノファ山口の今シーズンの成績はJ2の中位でした。来シーズンもJ2で戦いますが、是非、J1への夢の昇格を期待したいものです。

レノファ山口は、練習拠点を市内の県立おのだサッカー交流公園に置いています。およそ週1回、ホーム、アウェイでの試合のため、全国各地に出掛けますが、練習時に「特別見学会」を開いたり、また、練習の合間にはサッカー教室や小学生・保育園児との触れ合いの時間を作ってくれたり、その他、様々な企画に協力してくれており、そうした行事を通じて、市民の一体感の醸成に寄与してくれるほか、見学者の増加による市内外の交流人口の増加や、観光・交通・飲食その他の経済効果も期待されます。

レノファ山口への支援は、ホームタウンであり、かつ練習の拠点でもある本市にとって、まちの活性化を推進するうえで、非常に有益な取

り組みであると考えます。本市の職員も、その22%がホームゲーム(維新百年記念公園陸上競技場)の応援に出掛けているそうです。市民のみなさんも、どうぞよろしくお願いします。

■子ども子育て支援の現状

本市の健康福祉部には「高齢福祉課」「障害福祉課」「社会福祉課」「国保年金課」「健康増進課」「こども福祉課」の6課があり、日々、市民への福祉サービスを提供しています。

こども福祉課には、課長以下約20人の職員がいますが、子育て支援係、保育係、こども未来室のほか、ことばの指導員が3名配置されています。子育て支援係は、児童相談所との連携・なるみ園・児童手当・母子寡婦福祉・ファミリーサポートセンターなどに関すること、保育係は、保育園・幼稚園・児童館・児童クラブなどに関することに加えて、「子育てコンシェルジュ」が配置されています。こども未来室は、過日購入した旧労働基準監督署(JR小野田駅北側の施設)を「子育て総合支援センター」に整備する作業などを担当していますが、こども福祉課には、職員以外に、母子自立支援員や家庭児童相談員もあり、業務内容も複雑多岐にわたるため、子ども子育てに関することであれば、ひとまず「何でもご案内します」という利用者の立場で制度化した「子育てコンシェルジュ」にお尋ねになってみてはいかがでしょうか。コンシェルジュは元幼稚園の園長さんです。

子ども子育ての分野は、少子化の世相を反映して、都市間競争の様相を呈していますが、本市も負けずに頑張っています。